

編集後記

□ 広報・編集委員会の重要な任務の一つである日本部会のプレゼンスに関するキーワードを列挙してみました。ビジョン、発揮する、メディア、注目される、向上する、拡大する、高める、共感、差別化、最後に全フェローの「志」、In Fellowship! (富士谷盛興)

□ 昨今のコロナ禍のもと、広報・編集委員会も不自由なWebでのリモート会議を開きながら、委員各位の協力のもと今回の第52巻1号の発刊にこぎ着けました。

本号も各界の重鎮の先生方に投稿戴き、ボリュームたっぷりの読みごたえある内容となりました。執筆戴いた先生方、執行部や広報・編集委員ならびに事務局、各位に御礼申し上げます。(今村嘉宣)

□ 歯科は、オックスフォード大学等の研究で人工知能等への代替される確率の低い職業に挙げられました。特別な知識と治療のスキル、また患者の理解、説得が求められることが、代替を困難にしている要因と考えられます。まさに歯科治療の魅力と言えるでしょう。(佐藤 聡)

□ 委員会に入れていただき、丸4年になりました。委員長として、ICDの活動をより広く広報できるよう、ICDのフェローとして貢献したいと思います。皆様のお支えをいただき、少しは良くなってきていると思っています。これからもますます頑張ります。(佐藤裕二)

□ 2021年は、新型コロナウイルスが治まり、生活もコロナ以前に近いほど戻ると信じていましたが、まだまだ長引きそうです。この現実を否定すればするほど上手くいくはずがなく、まずは受け入れる(受容)が大事。どう捉えるかによって、大きく変わります。脳は、問い掛けに対して答えようとします。どんな状況でも感謝の気持ちを忘れず、今できることを無理なく愉しんで進むことがより大事になっていると考えますが皆さんはどう思われますか? 一刻も早くコロナが終息することを心から祈っています。感謝を込めて…。(白壁浩之)

□ 2020年に新フェローになり広報編集委員を拝命致しました。雑誌がより充実するよう微力ながら貢献したいと思います。COVID-19がなかなか収束せず、学会の会議もWEBで行われ、コロナ後の学会のあり方に一石が投げられたように感じています。(坂本輝雄)

□ Covid-19の収束が見えないなか、本会も100周年記念祝賀会の中止など、その影響を大きく受けました。刊行物の発行が会員間の交流の一助となることを期しております。本号発行にあたり、ご寄稿下さった先生方・ご協力いただきました皆様に、厚く御礼申し上げます。(下村直史)

□ ICD雑誌52巻1号は私の広報委員会で初めての仕事となりました。仕事と言ってもほとんど先輩諸氏の進行を見ているだけで今後に役立てればいかと考えています。次の100年に向かって微力ですが協力を惜しまない所存です。(武内久幸)

□ ICDに入会し、すぐに広報編集委員になり、早いもので1年が過ぎました。コロナ渦でのWeb会議がありますが、諸先生方の会に対する熱意を感じています。それに負けないように、少しでもお役に立てるように頑張る所存です。(林 昌二)

□ 今回より編集委員を務めさせていただいております。私在住の名古屋にて開催が予定されておりました100周年記念祝賀会の中止は本当に残念です。段階的にワクチン接種が進んできておりますが、この厳しいコロナの状況が少しでも好転することを願っています。(掘江 卓)